

## 世界史研究推進委員会

### 共同研究「高大連携」および「世界史への興味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

神奈川工業高等学校 中山拓憲

2016年度も世界史推進委員会は、おおむね二か月に一回のペースで、神奈川工業高校、鎌倉学園高等学校、横浜市立商業高等学校を会場に委員会を開催しました。加えて、高大連携講座を中心に様々な研究発表活動を行いました。関係各位の皆さまには、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。2016年度の活動を報告させていただきます。

#### 研究発表

社会科部会歴史分科会研究発表会（2016年3月10日(金)）（地球市民かながわプラザ）

「バルト海世界を視点とした近世ヨーロッパ史の学習」佐藤靖彦（県立氷沢高等学校）

#### 第8回「高大連携の試み」 鎌倉学園中学校・高等学校（8月1日～3日）

##### テーマ「近世のアジアをどう教えるか2」

午前中は、鈴木健司、大西信行、中山拓憲の3名の高校教員と小川道大、中村武志、蓮田隆志の3名の大学教員の先生方による講義を、神奈川県内の県立・私立の生徒を対象に行いました。今年度は若手の大学教員の講義を聞くことができ、昨年度とは同じテーマながら、面白い会になったのではないかと思います。鎌倉学園からは多くの中学生にも参加をいただきました。テーマが高度であったとしても、理解しやすい授業をすることの大切さを、改めて実感することができました。

#### 委員会例会

定例の委員会では、南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編『アジアから見た新しく学ぶ西洋の歴史』（ミネルヴァ書房）の読書会を行いました。2017年度も継続する予定です。最新の研究を踏まえた中世以降のヨーロッパ史が一冊で学べる便利な本であり、委員会と関係のある研究者が書いているという点でも、我々の研究関心に合った本と言えます。

#### 昨年度から今年度にかけてのトピック

2016年度の委員会について、2017年度にも関係してくるものを3つ挙げて報告を終わります。1つ目は委員数がかかなり増えました。意欲的な先生が多く、例会も活気が出てきました。一方で、ベテラン教員も過去のテストや教材を持参し、お互いに刺激を与えることができています。

2つ目は、日本史・世界史の融合への取り組みです。今までも取り組んできたことですが、新科目「歴史総合」を見据えてより積極的に行っています。高大連携講座でも日本史専門の先生に発表していただきまし、東南アジアを担当した蓮田先生にも東南アジアにおける日本人という日世融合のテーマで講演しました。今年度は、日本史・世界史合同の研究推進委員会を行う予定もあります。

最後は、アジア史を踏まえた、ヨーロッパ史への取り組みです。委員会では約10年間に渡り、大阪大学の桃木先生を中心とした諸先生方の協力のもと、高大連携講座でアジア史に取り組んで参りました。その成果を踏まえて新しい視点からヨーロッパ史を捉えなおすことを始めております。上記の通り、例会ではヨーロッパ史をテーマとして取り上げており、3月の歴史分科会研究発表会の発表もバルト海周辺をテーマとして扱いました。さらには来年度の高大連携講座で桃木先生コーディネイトは変わりませんが、「近世のヨーロッパをどう学ぶか」というテーマで始めてヨーロッパを扱います。

2017年度も、多くの先生方のご参加をよろしく願いいたします。ご多忙の折とは拝察いたしますので、参加できるときに気軽に参加していただければと思います。